

用語解説

一次性强化子 (primary reinforcers) 150

個人にとって生物学的な重要性を持つ刺激(たとえば食べ物)。そのような刺激はもともと動機づけが高い(自然強化子、非学習性强化子、無条件性强化子とも呼ばれる)。

逸話的レポート (anecdotal report) 68

データを収集しようとしている行動やそのときの周囲の状況などをできるだけ多く書きとる連続的なデータ記録。時間の流れに沿って出来事がかかれ、記録しようとしている行動やその直前の出来事、結果事象が記録される。

A B デザイン (AB design) 110

1 事例の実験デザインの1つで、A B デザインはベースライン (A) と処理 (B) の2つのフェイズを持つ。このデザインでは独立変数と従属変数の関数的関係を明らかにすることはできない。

エラーレスラーニング (errorless learning) 214

正反応だけが出現するように弁別刺激やプロンプトを用いる指導手続き。

過剰修正法 (overcorrection) 195

不適切な行動の出現頻度を減少させるために用いられる手続き。その生徒は集中的な練習を通じて、適切な行動を教えられる。過剰修正法には2つの方法がある。回復過剰修正法 (restitutorial overcorrection) では、生徒は、壊したり、汚したりした物をもとどりの状態にし、さらにそれ以上の状態にまでしなければならないので、過剰訂正と呼ばれる。積極的練習法 (positive-practice overcorrection) では、不適切なふるまいをするたびごとに、適切な行動の集中練習をしなければならない。

間隔スケジュール (interval schedules of rein-

forcement) 169

強化子の呈示があらかじめ決められた時間、つまり反応間隔が経過した後の反応に対して随伴されるスケジュール。固定間隔 (F I) スケジュールでは、反応間隔は一定で、たとえば F I5 では前の反応から5分以上経過した最初の反応が強化される。変動間隔 (V I) スケジュールでは、反応間隔は変動する。たとえば、V I5 では平均して5分の反応間隔が経過した第1反応が強化される。

間欠強化スケジュール (intermittent schedules of reinforcement) 168

正反応あるいは適切な反応のすべてではなく、その内のいくつかに対して強化子が呈示されたり、適切な行動がある一定の期間継続したときに強化子が呈示される強化スケジュール。これらのスケジュールには、反応率、反応間隔、反応持続時間スケジュールなどが含まれる。

関数的関係 (functional relationship) 106

独立変数と従属変数の疑似的因果関係。独立変数が導入されたり操作されたりすることによって、従属変数が系統的に期待する方向へ変化していく時、疑似的因果関係が存在するといわれる。

基準変更デザイン (changing criterion design) 117

強化基準を継続的に変化させていく1事例の実験デザイン。その基準は段階的な形で増大、あるいは減少させられていく。

逆行性チェイニング (backward chaining) 218

行動連鎖を教える手続きの一つで、行動連鎖の一番最後の反応を最初に教えて、次には最後から2番目の反応をつけ加えていく。このようにして、一つの指示で最初から最後まで反応

さまるで単一の反応のように遂行できるように指導していく方法。

強化子 (reinforcer) 147

行動の再来の出現率や反応確率を維持したり増大させたりする結果刺激。

嫌悪刺激 (aversive stimulus) 191

結果として呈示されたとき、その行動の出現率や反応率を減少させる刺激。そのように機能するときには、罰刺激となる。逆に、ある嫌悪刺激が、結果として除去されたときに反応率や出現率が増大するときには、それは負の強化刺激として機能している。

行動的産物記録 (permanent product recording) 71

行動によって生み出される環境の変化、あるいは産物を記録する記録方法。たとえば、書取テスト（結果記録とも呼ばれる）

行動目標 (behavioral objective) 15

どんな行動変化を生じさせようとしているのかを伝達する記述。行動目標を書く場合には、誰が、どんな行動を、どんな状況下で行うかを明確にし、さらに評価の基準を明確にしなければならない。

固定間隔スケジュール (F I) 169

間欠強化スケジュールを参照。

コントロールされた呈示法 (controlled presentations) 77

事象記録法の一つで、あらかじめ反応機会を決めておく方法。この方法では、1回のセッション中に与えられる一定の試行数が呈示される。

シェイピング (shaping) 19

標的行動に近い行動を徐々に分化強化していくことで新しい行動を教えること

刺激統制 (stimulus control) 19

ある行動を出現させる手がかりとなるような

先行事象と行動との関係。一定の先行事象が存在するときに、ある行動が強化され続けると、その行動はその先行事象が存在するときに出現しやすくなる。反応生起の手がかりとなり、それに続く反応が強化を受ける先行事象は、弁別刺激 (S^R) という。反応生起の手がかりとして機能しない、したがって引き続く行動が強化を受けない先行事象はSデルタ (S_Δ) と呼ばれる。

刺激の過剰選択性 (stimulus overselectivity) 204

刺激全体に注目せず刺激の2、3の側面にだけ注目してしまう傾向。

刺激プロンプト (stimulus prompt) 214

正反応の出現頻度を増大させるように刺激を変化させていく方法。エラーレスラーニングでたびたび用いられる。

事象記録法 (event recording) 72

観察期間中に生じた行動の総頻度数を記録する方法。観察記録法の一つ。

所要時間記録 (duration recording) 89

反応の開始から終了までの時間の長さを記録する方法。観察記録法の一つ

社会的強化子 (social reinforcers) 153

表情、身体的な接触、持権を与える、ほめ言葉などの二次的強化子

従属変数 (dependent variable) 106

処理によって変化させられる行動。

消去 (extinction) 19

行動の出現頻度を減少させるために以前強化されていた行動に対する強化を撤去すること。

条件性強化子 (conditioned reinforcer) 153

無条件強化子、あるいは自然強化子と対呈示されることで強化機能を獲得するようになった刺激。条件性強化子には、たいてい社会的活

動に強化子が与えられる。二次性強化子とも呼ばれる。

信頼性 (reliability) 10

同じして評定者間のデータの一致性を示す。信頼性は次の式で求められる。

$$\frac{\text{一致した回数}}{\text{一致した回数} + \text{不一致の回数}} \times 100$$

制限時間 (limited hold) 170

同じスケジュールの中で用いられる手続きで、強化子を得ることができる時間を制限する手続き

正の強化 (positive reinforcement) 18

反応の直後にある刺激を随伴呈示することで、その刺激が将来の反応率や反応確率を増大させるもの

先行刺激 (antecedent stimulus) 19

行動に先行している刺激。この刺激は特定の行動の弁別刺激となっているかもしれない、そうでないかもしれない。

操作交代デザイン (alternating treatment design) 127

2つ以上の治療方法の効果を比較することができる1事例の実験デザイン。他の1事例の実験デザインと違って、比較される治療方法が時間的な順序で行われるのではなく、ランダムに変えられる。多重スケジューリングデザイン multiple schedule design、多重要素デザイン multielement design、条件交代デザイン alternating conditions design とも呼ばれる

タイムアウト (time out) 188

一定の決められた時間、強化を受ける機会を生徒に与えないようにする事で不適切な行動を減少させる手続き。

他行動分化強化 (differential reinforcement of other behaviors DRO) 158

ある一定時間、標的行動が自発されていないときに強化が与えられる。強化は行動が出現しないことに対して随伴されている。

チェイニング (chaining) 216

一つ一つの反応を順番に強化して、複雑な行動を形成していく手続き

低頻度行動の分化強化 (differential reinforcement of lower rates of behavior DRL) 176

ある一定の時間内の反応数があらかじめ決められた限度よりも少ないときに強化がなされる。この手続きにより、あらかじめ決められた反応数を維持するようになり、それは通常、自然な状態で生じるとき、あるいはカーブラインの反応数よりも少なくなる。

独立変数 (independent variable) 100

実験者が行動を変化させるために操作する治療の介入

独立した行動 (discrete behavior) 70

行動の開始と終了が明確に区別できる行動

バックアップ強化子 (back-up reinforcer) 156

ある一定量のトークンやポイントと交換される物や活動

般化 (generalization) 230

最初その行動を習得した状況以外に状況へ能力が拡大していくこと。刺激般化とは、その行動が獲得されるときに存在していた条件以外の条件(手がかりや教材、訓練者、環境など)のものでの反応を指す。行動の維持とは、随伴性がなくなった後でも、学習された行動が連続的に出現していることを指す。反応般化とは、直接的に操作された行動に類似した行動へ変化していくことを指す。

般性条件性強化子 (generalized conditioned reinforcer) 155

多様な行動や一次性強化子、二次性強化子の使用と連合した強化子。単に般性強化子と呼ばれる

かることもある。

反応持続時間スケジュール (response-duration schedules of reinforcement) 170

一定して行動を行なっている時間に随伴して強化子を呈示するスケジュール。固定反応持続時間スケジュール (fixed-response duration FRD) では、一定時間行動を持続してれば強化が与えられる。たとえば、FRD10分では適切な行動が10分間持続していると強化子が呈示される。変動反応持続時間スケジュール (variable-response-duration VRD) では、強化を受けるために必要な反応持続時間は一定ではない。たとえば、VRD10分では平均して10分間適切な行動が持続してれば強化が与えられる。

反応般化 (response generalization) 202

標的行動が変容されたとき、それに類似した反応も変化する事。

反応率のひずみ (ratio strain) 171

強化スケジュールが余りに急激に希薄になってしまったために、正反応と強化の比率が大きくなりすぎて適切な反応率が維持できなくなったときに生じる反応の崩壊。

比率スケジュール (ratio schedules of reinforcement) 169

正反応数に対して強化子が随伴されるスケジュール。固定比率スケジュール (FR) では、強化にはある一定の反応数が必要で、その反応数は一定に保たれている。たとえば、FR5では5回目の反応ごとに強化がなされる。変動比率スケジュール (VR) では、強化されるために必要な反応数は一定ではない。たとえば、VR5では平均して5回目の反応に対して強化が呈示される。

フェイディング (fading) 209

弁別刺激が単独で反応を生起するようにするためにプロンプトを段階的に除去していく方法。

負の強化 (negative reinforcement) 18

反応の直後は嫌悪刺激を除去する随伴操作。負の強化はその反応の将来の出現率や出現確率を増大させる。

負の練習法 (negative practice) 199

不適切な行動を過剰に練習させる方法。疲労あるいは飽和のために出現率が減少する。

プレマックの原理 (Premack principle) 154

高頻度活動は低頻度活動の強化子として機能するという原理 (活動性強化とも呼ばれる)。

プロンプト (prompt) 205

弁別刺激が望ましい反応を生じさせる反応確率を増大するようにつけ加える刺激。

ベースラインデータ (baseline data) 107

標的行動のオペラントレベルを示すデータ。オペラントレベルというのは治療を始める前の、自然な状態での行動の出現率である。ベースラインデータはプレテストと同じような目的を持ち、治療を行ったときの結果と比較検討される材料となります。

飽和 (satiation) 151

もはやオペラントレバンの状態にない時に生じる状態。

マルチベースラインデザイン (multiple baseline design) 121

ある指導法が(a)複数の生徒、(b)複数の行動、(c)複数の場面で反復される1事例の実験デザイン。独立変数を系統的で連続的に導入したときに従属変数の変化がみられたら、関数的関係があるといえる。

モデリング (modeling) 19, 207

模倣反応をプロンプトするために、望ましい行動のモデルを示すこと。

両立できない行動の分化強化 (differential reinforcement of lower rates of behavior D R

1) 180

減少させようとしている行動と両立できない反応を強化する方法。

レスポンスコスト (response cost) 186

行動の出現に随伴して呈示されていた強化子を一定量撤去することで、不適当な行動を減少させる手続き。

レスポナント条件づけ (respondent conditioning) 187

無条件刺激が誘発する反応を生じさせるように、刺激を無条件刺激と対呈示する過程。たいていの反応は反射的なので、随意的なコントロール下にはないものである。

連続強化スケジュール (continuous schedule of reinforcement CRF) 168

正反応に毎回強化子を呈示するスケジュール。反応と強化の比率は1対1となる。